

1. 主題・副題の設定理由

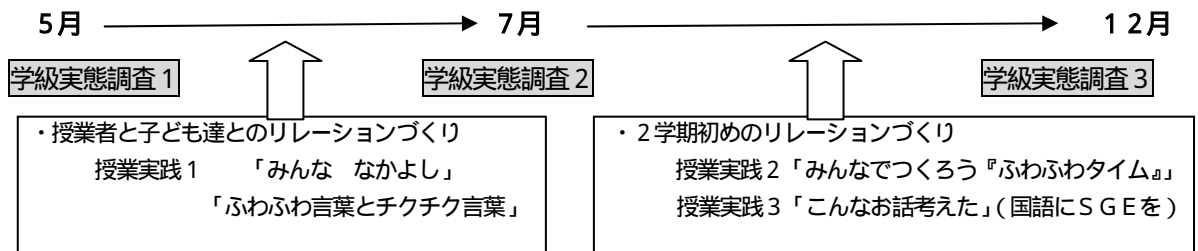
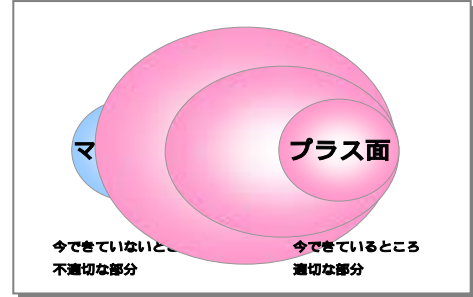
今,学校を取り巻く様々な状況から,「育てるカウンセリング」の理論と技法を取り入れた,積極的な生徒指導の機能の実現が求められている。そこで,学校教育の中でも生徒指導を着実に進める上での基盤となる学級集団づくりに焦点をあて,一人一人の存在感と自己肯定感を持ち,互いに認め合う学級集団をめざしたアプローチをする。

2. 研究の内容

主として,構成的グループ・エンカウンター,ソーシャルスキル・トレーニング,グループワーク・トレーニング,クラス会議(アドラー心理学による)の4つの理論と技法を学び,そこから自分の基本姿勢を持って実践に取り組んだ。

基本姿勢1 学級集団や子ども達の,プラス面(今できているところ,良いところ)に焦点をあててかかわっていくことで,プラス面をより伸ばす。

基本姿勢2 子ども達が,集団の中で肯定的なかかわりを体験する,心地良い体験をする場を設定していくことで,自己肯定感や承認感を高める。



3. 研究の結果とまとめ

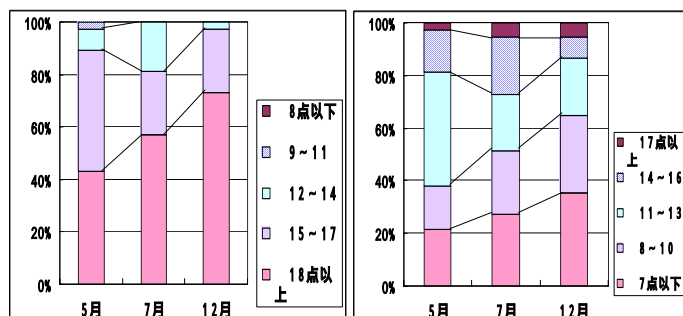
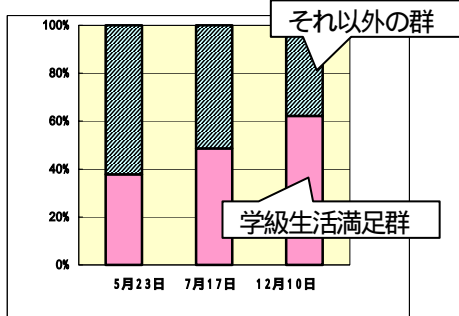


図1 学級生活満足群とそれ以外の合計人数の変化 (%) 図2 承認得点(左図)と被侵害得点(右図)の変化 (%)

・学級集団や子ども達の,プラス面に焦点を当てたアプローチをすることで,プラス面をより伸ばすと同時に,マイナス面を減らすことができる。プラス面に焦点をあててかかわる基本姿勢が「個を生かし,互いにつながり合う学級集団」を育てる時に有効である。

友だちとのかかわりの中で,不適切なかかわり方があることに気づかせ,適切で肯定的なかかわりを体験する場を設定していくことで,普段の生活の中でも「適切で肯定的なかかわり方をしている。」「不適切なかかわり方をやめよう。」と意識し行動できるようになる。

・教科学習の中でも構成的グループ・エンカウンターの手法を取り入れていくことは可能である。その中で,友だちとの「協力」の関係を学ぶことができる。

4. 今後の課題

- ・学校生活のあらゆる場面で「育てるカウンセリング」の理論と技法を生かした積極的な生徒指導の機能の実現を図るために,個別の支援も含めてさらに学び,実践に生かしていく。
- ・教科学習のねらいを達成が主となるように留意しながら,構成的グループ・エンカウンターの手法を取り入れることができる場面を探っていく。